

『Web2.0に関する意識調査結果』

2006年9月11日

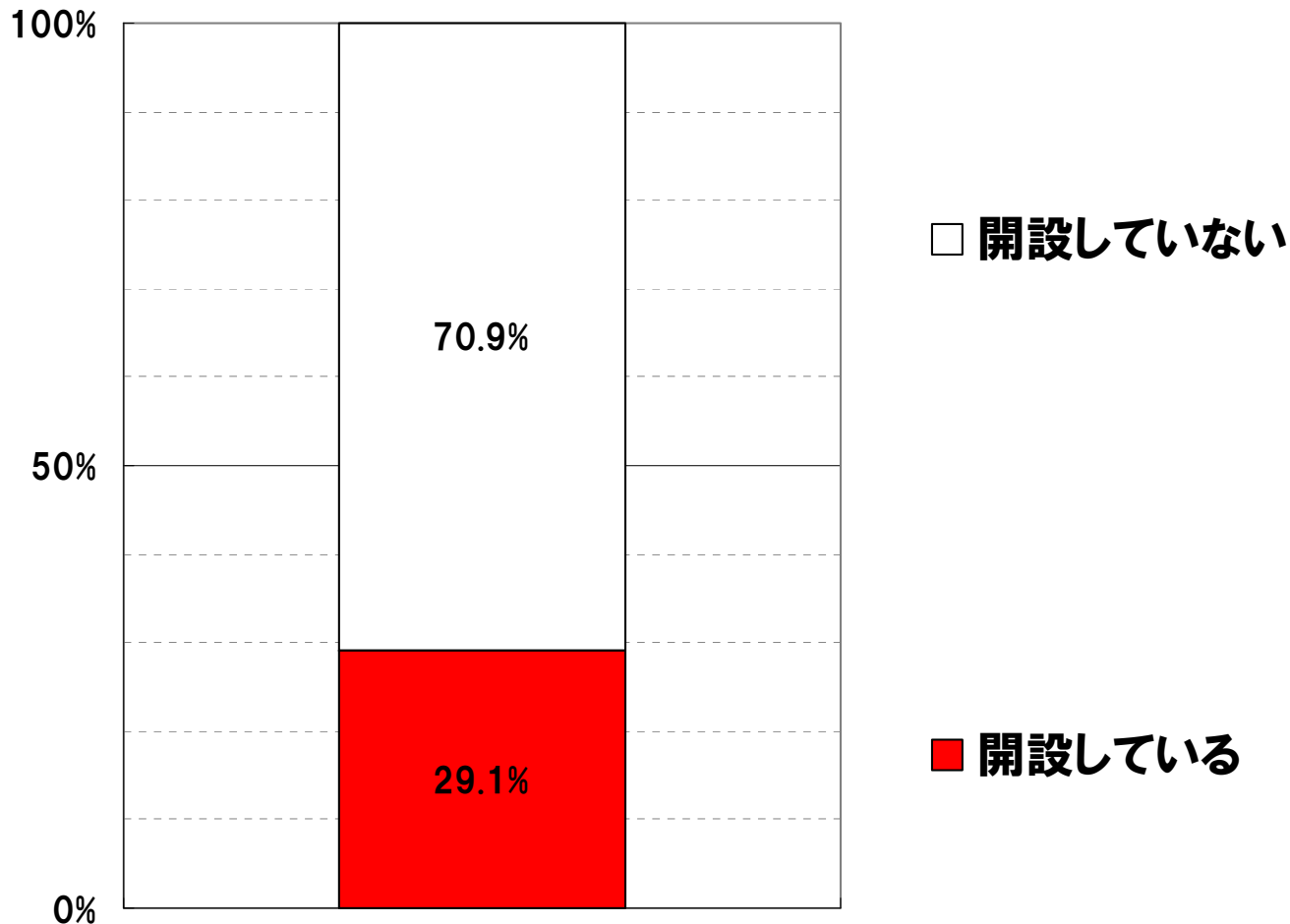
調査概要

- ▶ **題名**：ウェブに関する意識と利用動向調査
- ▶ **手法**：インターネット調査
- ▶ **調査会社**：マクロミル
- ▶ **実査日**：2006年9月1日
- ▶ **対象者**：20-69歳インターネットユーザー
- ▶ **質問数**：19問
- ▶ **有効サンプル数**：n=309

個人ホームページ開設有無

Q1.現在、あなたはご自身の個人ホームページを、
開設されていますか？

▶ 開設率 = **29.1%**

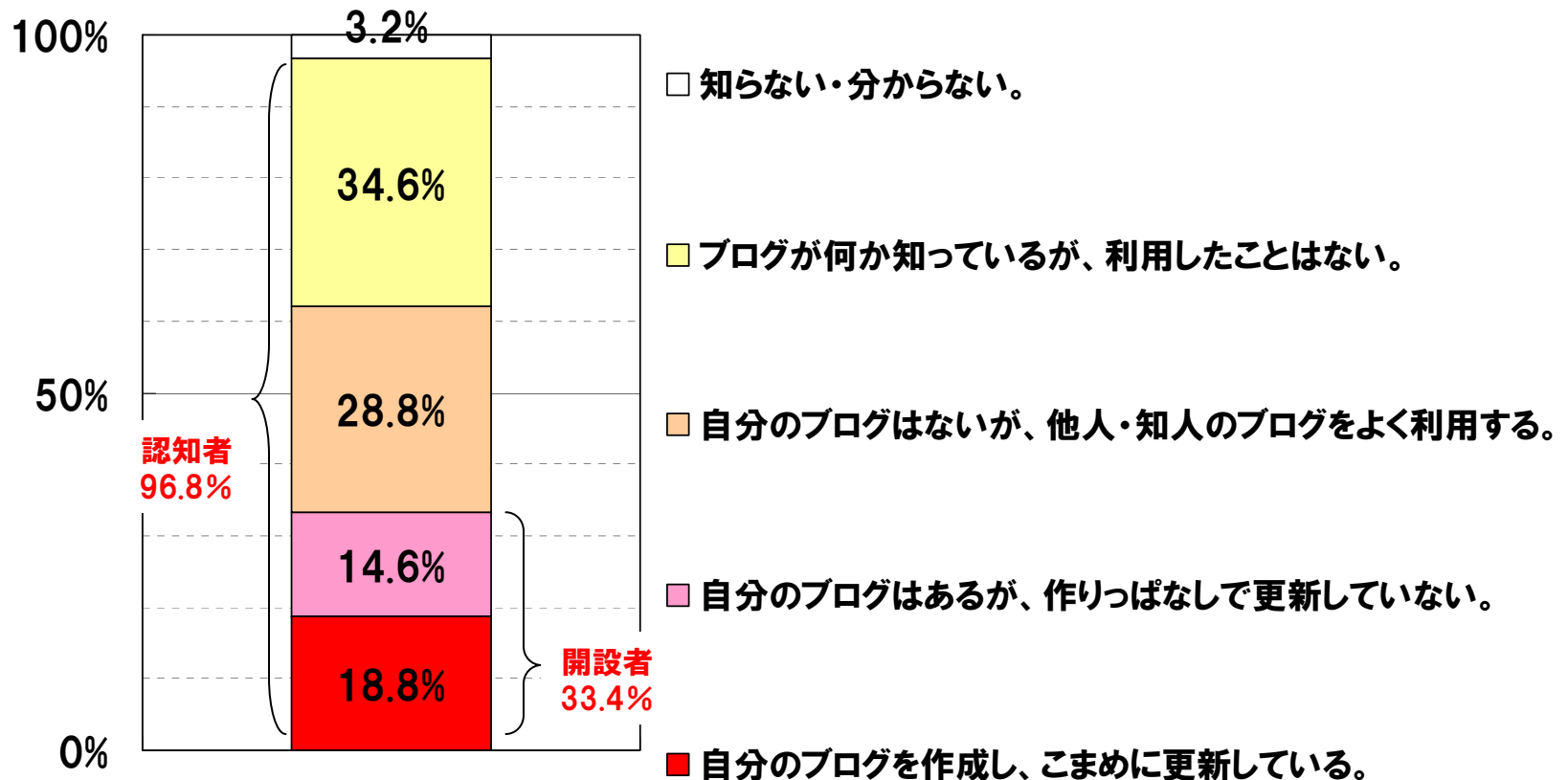


ブログ利用状況

Q2. 『ブログ』を利用されたことはありますか？

▶ ネット利用者のブログ認知度 = **96.8%**

▶ “ “ ブログ開設率 = **33.4%**



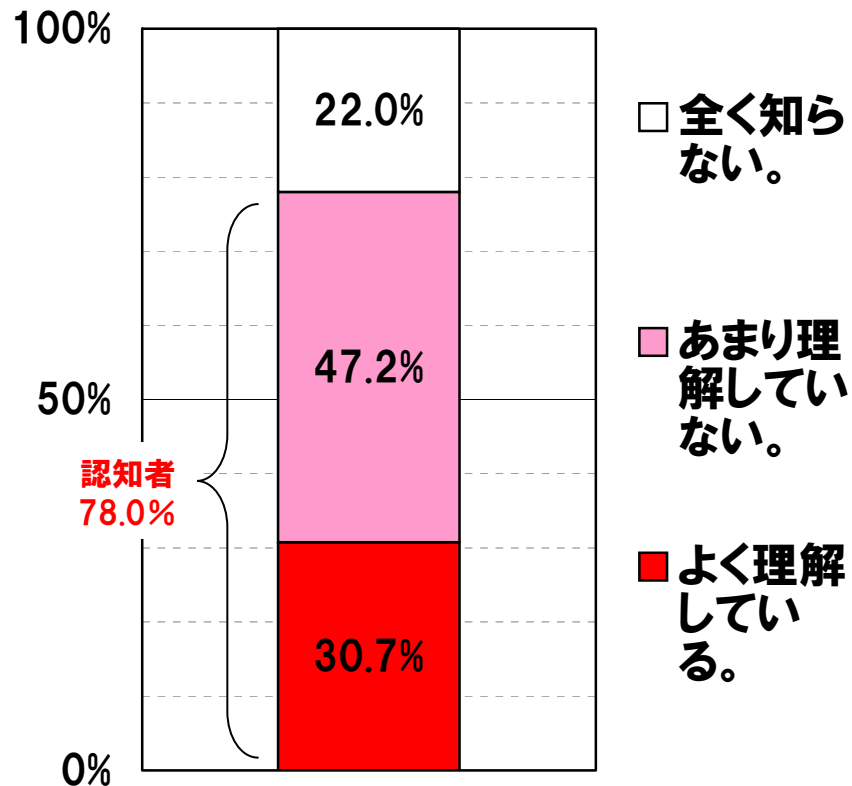
(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20~69才)

SNS認知・理解度

Q3. 『SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）』とは何か、ご存知ですか？

▶ ネット利用者のSNS認知度 = **78.0%**

▶ SNS詳細理解者 = 30.7%

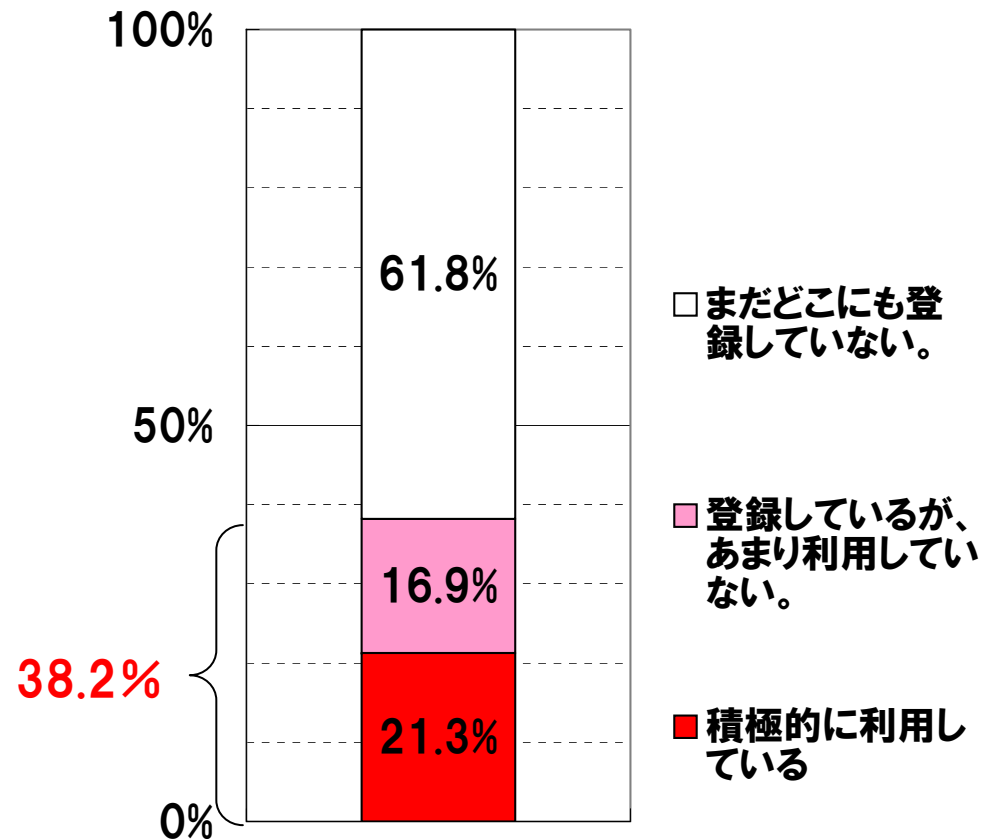


(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20~69才)

SNS利用状況

Q4. 『SNS』をご利用されていますか？

▶ SNS登録者 = 38.2%

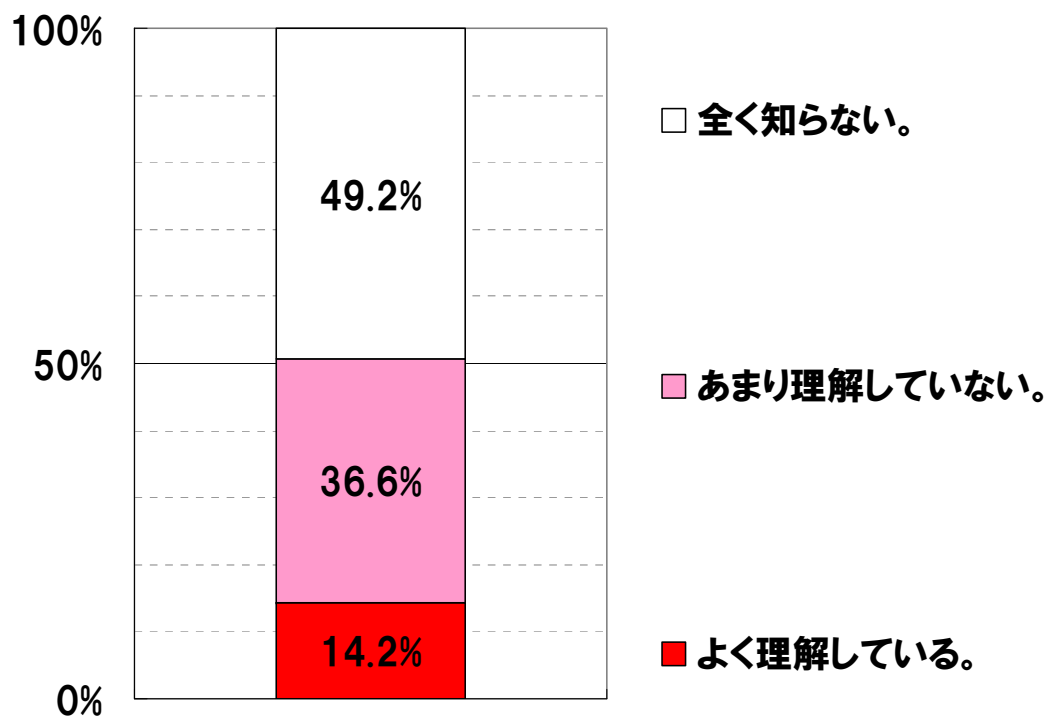


(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20~69才)

RSS認知度

Q5. 『RSS』とは何か、ご存知ですか？

▶ ネット利用者のRSS認知度 = **50.8%**

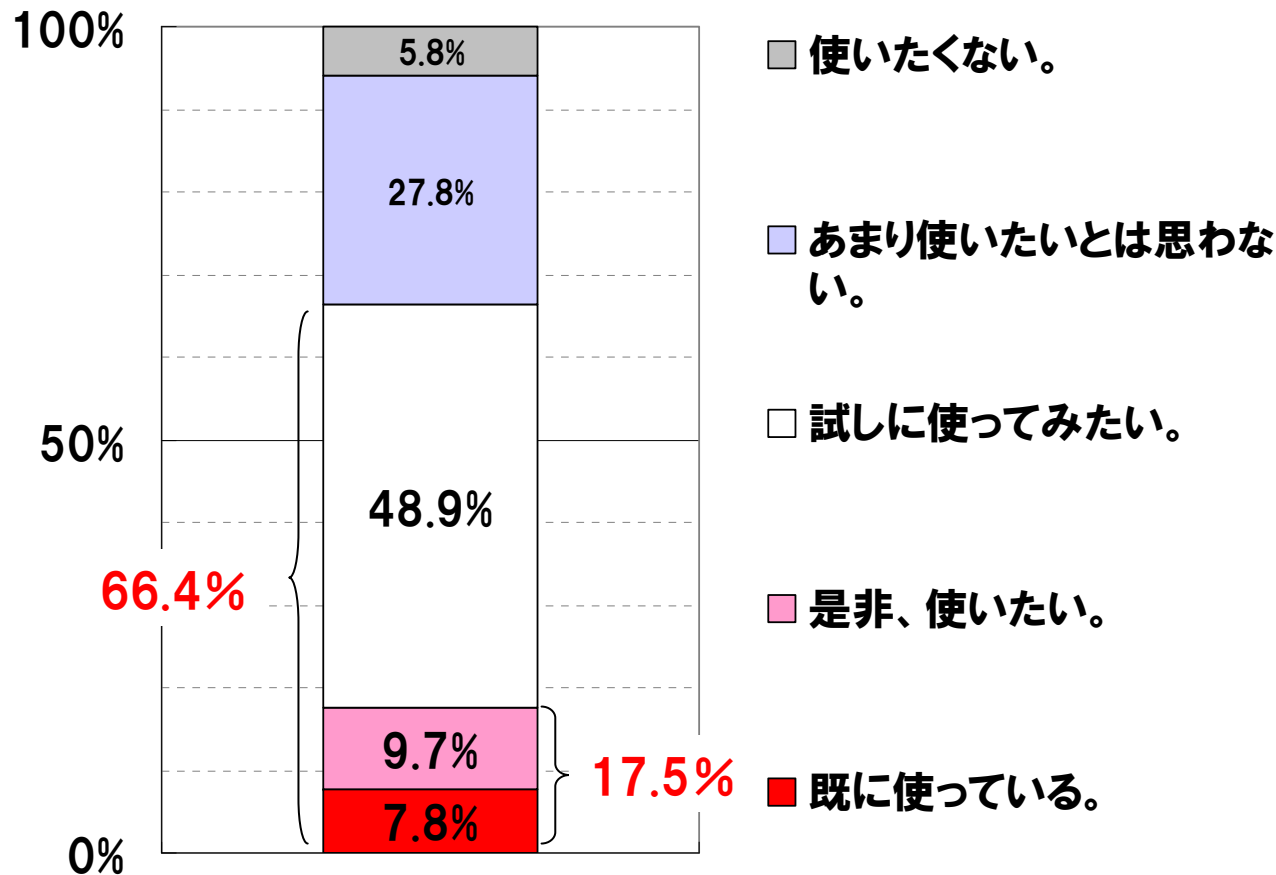


(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20~69才)

RSS利用意向

Q6. 『RSS』とは何か、ご存知ですか？

▶ ネット利用者のRSS利用意向者 = 66.4%



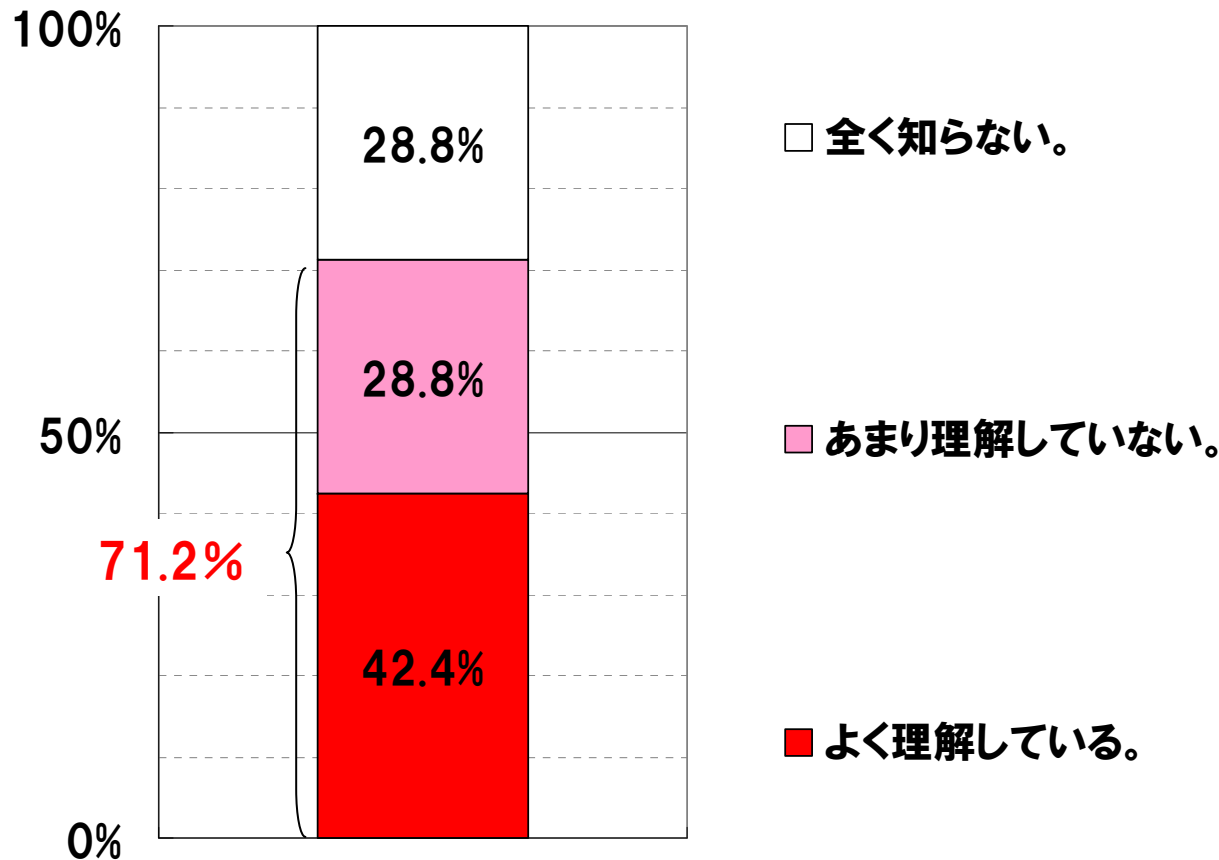
(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20~69才)

アフィリエイト・プログラム認知度

Q7.「アフィリエイト・プログラム」とは何か、ご存知ですか？

▶ ネット利用者のアフィリエイト認知度 = **71.2%**

▶ 詳細理解度 = 42.4%

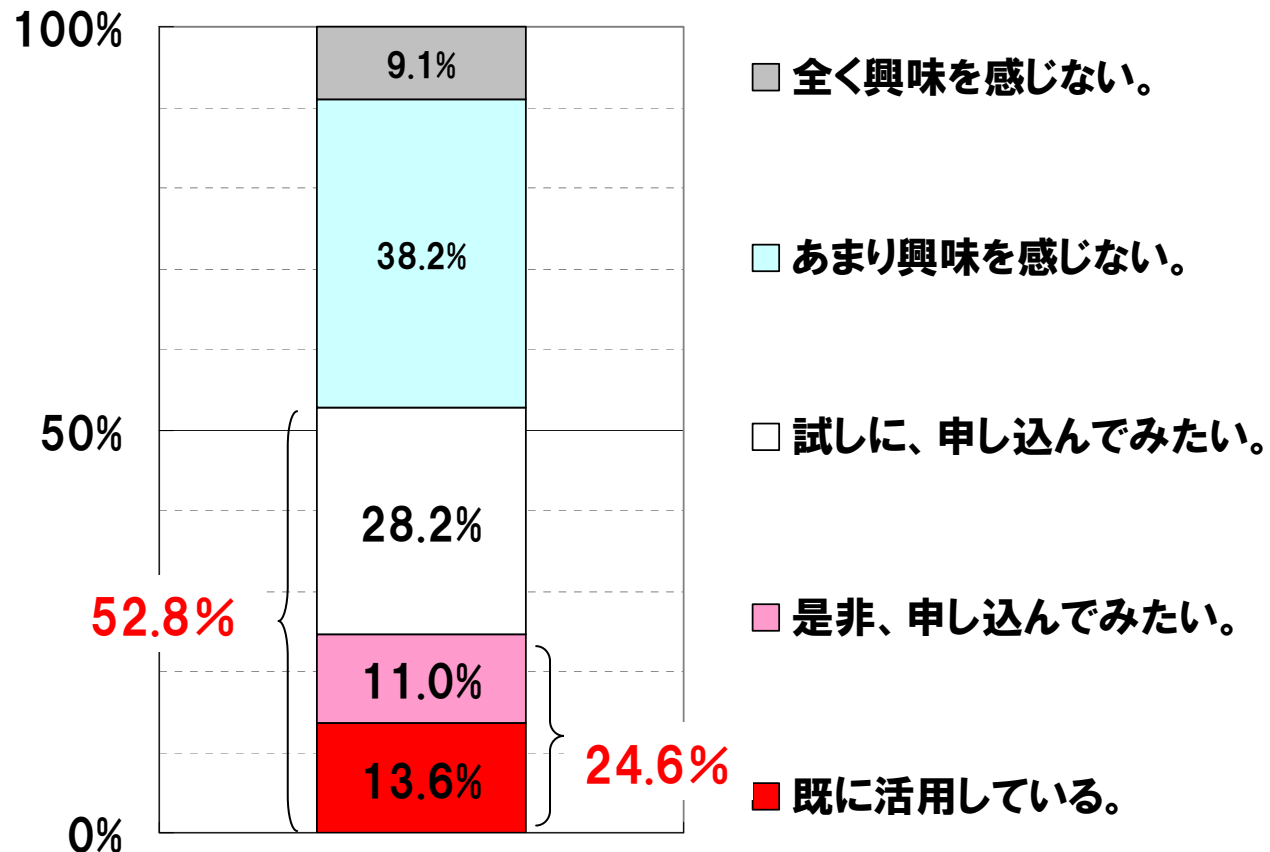


(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20~69才)

RSS利用意向

Q8.あなたもアフィリエイト・プログラムに申し込んでみたいと思われませんか？

▶ ネット利用者のアフィリエイト利用意向者 = 52.8%

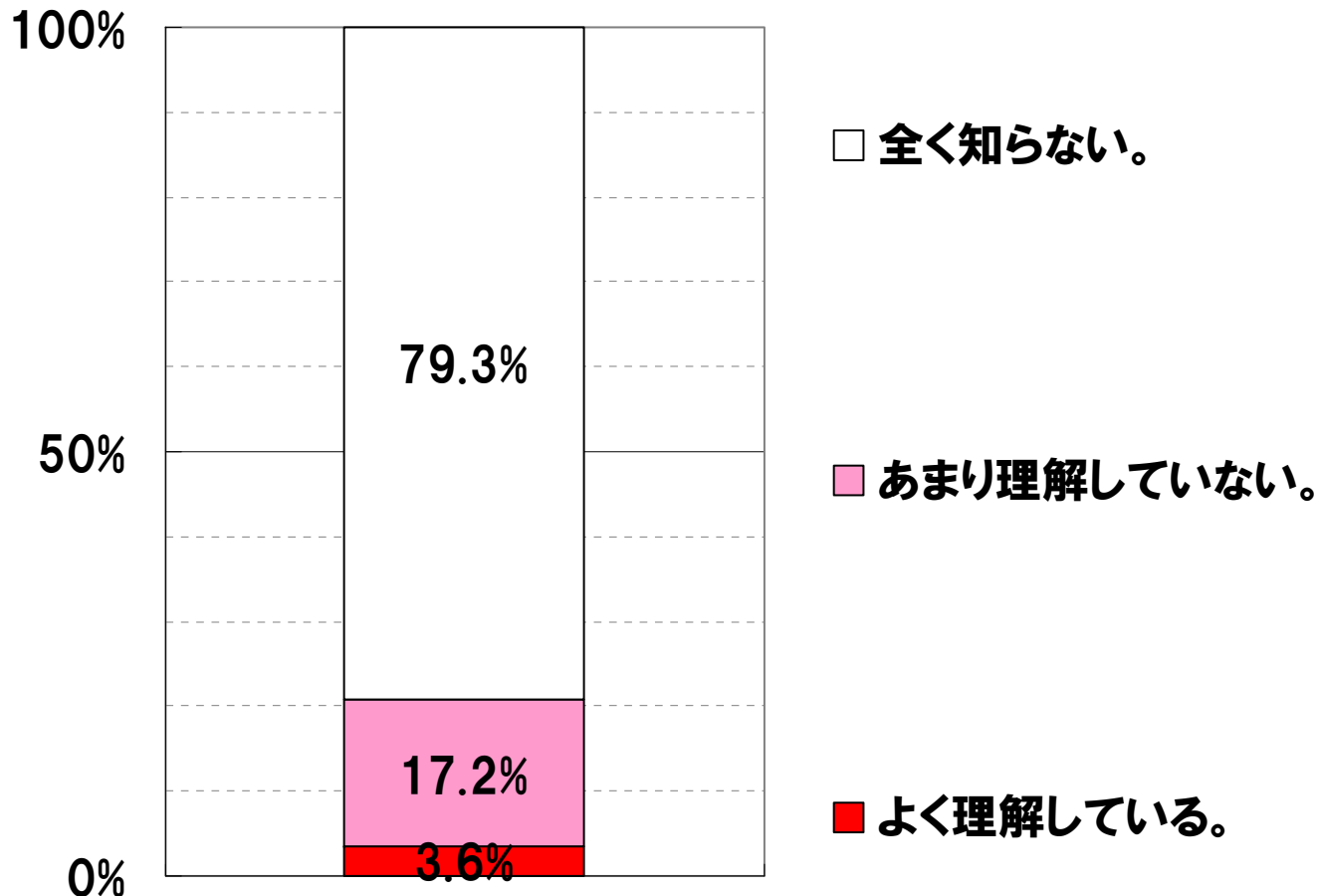


(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20~69才)

ロングテール

Q9.

▶ ネット利用者のロングテール認知度 = 20.8%

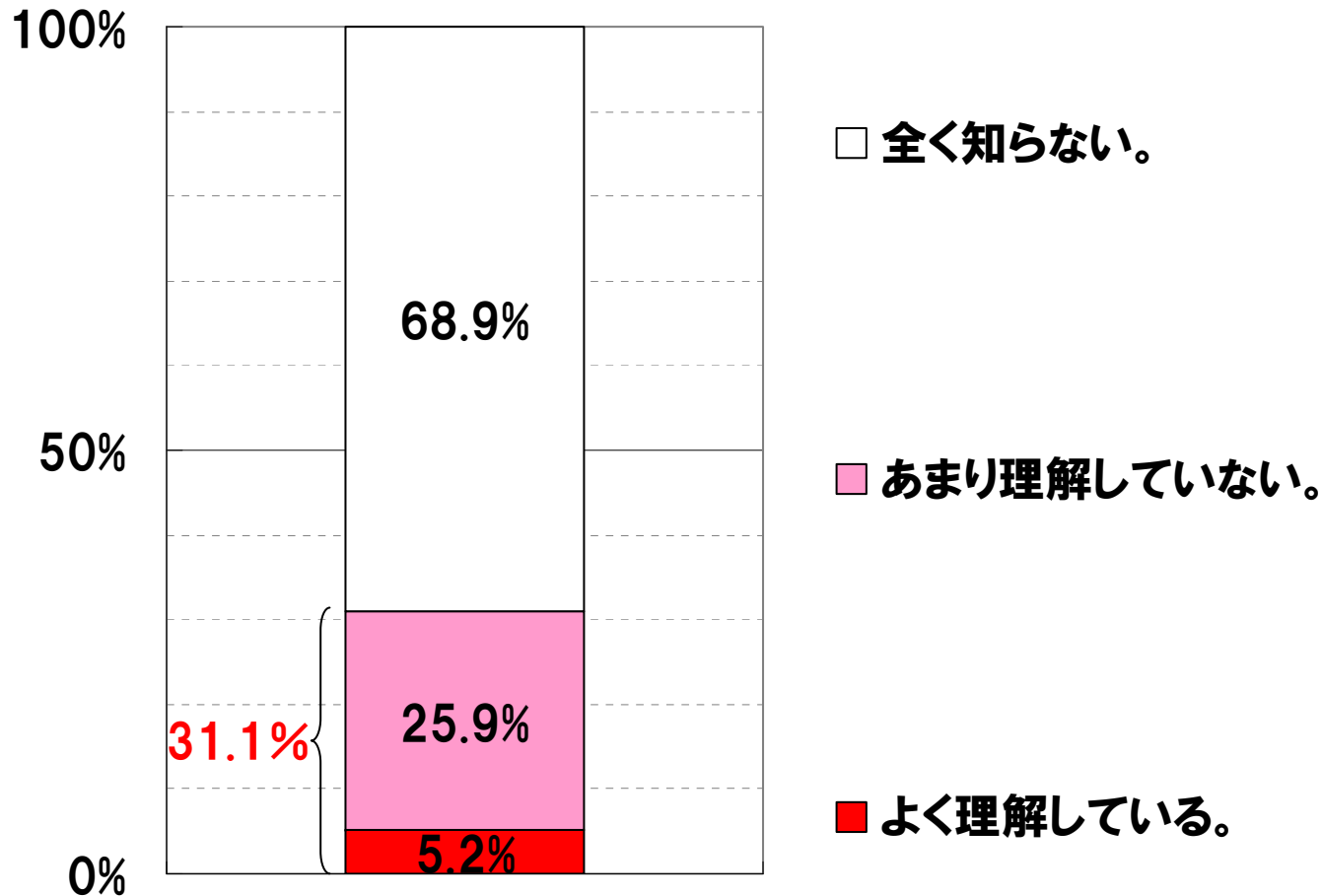


(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20~69才)

WEB2.0認知度

Q10. 『ウェブ2.0』とは、何かご存知ですか？

▶ ネット利用者の『WEB2.0』認知度 = **31.1%**



(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20~69才)

WEB2.0解釈

Q11. 『ウェブ2.0』とは、どのようなものだと思いますか？

▶ 自由回答

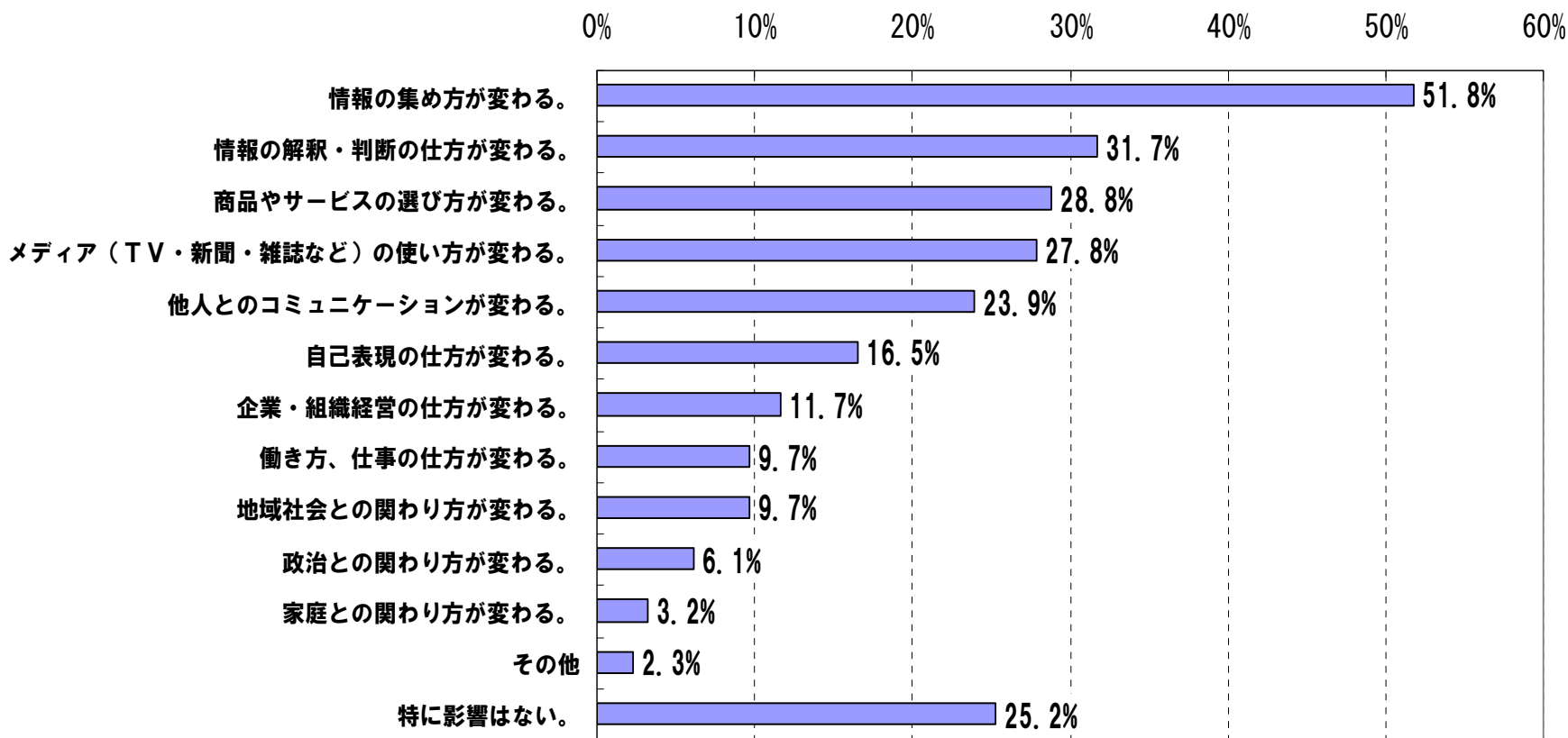
- 良く知らない
- 利用者がWebサイトを閲覧するだけでなく、書き込むなどして一緒に参加できる
- 明確な定義はしにくいですが、ここ2年ほどのインターネットの大きな変化の総称のように思う。ブログなども含めてそれ以前とは急激に変化しているので。
- 普及しそうでなかなか、開発者の問題より上層部が良く理解していない
- 総表現社会
- 双方向でコミュニケーションがはかれる新しいウェブの形……？
- 生活や仕事の役に立つもの。
- 新時代のウェブ制作のための標準規格となるルール。
- 最新のWEB技術
- 今のウェブの拡張版のような形でいろんなことができる。
- 検索や関連付けの自由度が高まったもの
- 回線インフラの品質向上が要求されそう
- 意識しなくてもWEBが利用しやすくなる
- 以前より使い勝手がよくなったもの
- ロングテール理論を代表とするWeb特有の性質を活用した新しいトレンド
- ユーザー参加型のコンテンツ。運営者側の一方的な情報提供と対極的。wikiやSNS
- ユーザー参加型のウェブ。ロングテールと呼ばれる少数派の商品でも、ビジネスへと繋げることができる。
- ユーザーの参加によりさらに成長していく?? みたいな認識で良いでしょうか……
- ユーザーにとって利便性が高い。技術よりもコンテンツの内容を重視し参加が可能。データの拡張、再利用が簡単に出来、コスト効率もよいなどが主な特徴。
- マスメディアなどからの一方的な情報配信ではなく、ウィキペディアなどのように一般の人同士で情報を 出すようなこと
- まあ、今よりWEBが良くなるものなら、良いのではないのでしょうか。
- ブログを進化させた個人発進方法
- フリッカー、RSSフィード機能などの総称
- これからもっと重要になる
- これからの時代は何でもフリー化の時代
- ウェブブラウザの種類
- ウェブの進化したものでネットワークが切断されにくくなった。
- ウィキペディアのような参加型ウェブ。
- インターネット普及初期よりも、双方向性や操作性などすぐれたより新しい形のインターネット利用とそれに関連するソフトやサービス

(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=Q10のうちWEB2.0認知者 全国20~69才)

WEB2.0の日常生活への影響

Q12.ウェブ2.0時代において、あなたの生活にどのような変化・影響が出るとお考えですか？（複数回答）

- ▶ 情報の集め方が変わる = 51.8%、解釈・判断の仕方が変わる = 31.7%
- ▶ 商品やサービスの選び方が変わる = 28.8%
- ▶ メディアの使い方が変わる = 27.8%



（出所：メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20～69才）

WEB2.0解釈

Q13.変化があると答えられた内容について、具体的にどのような変化があると思われるのか、あなたのお考えをお聞かせください。

▶ 自由回答

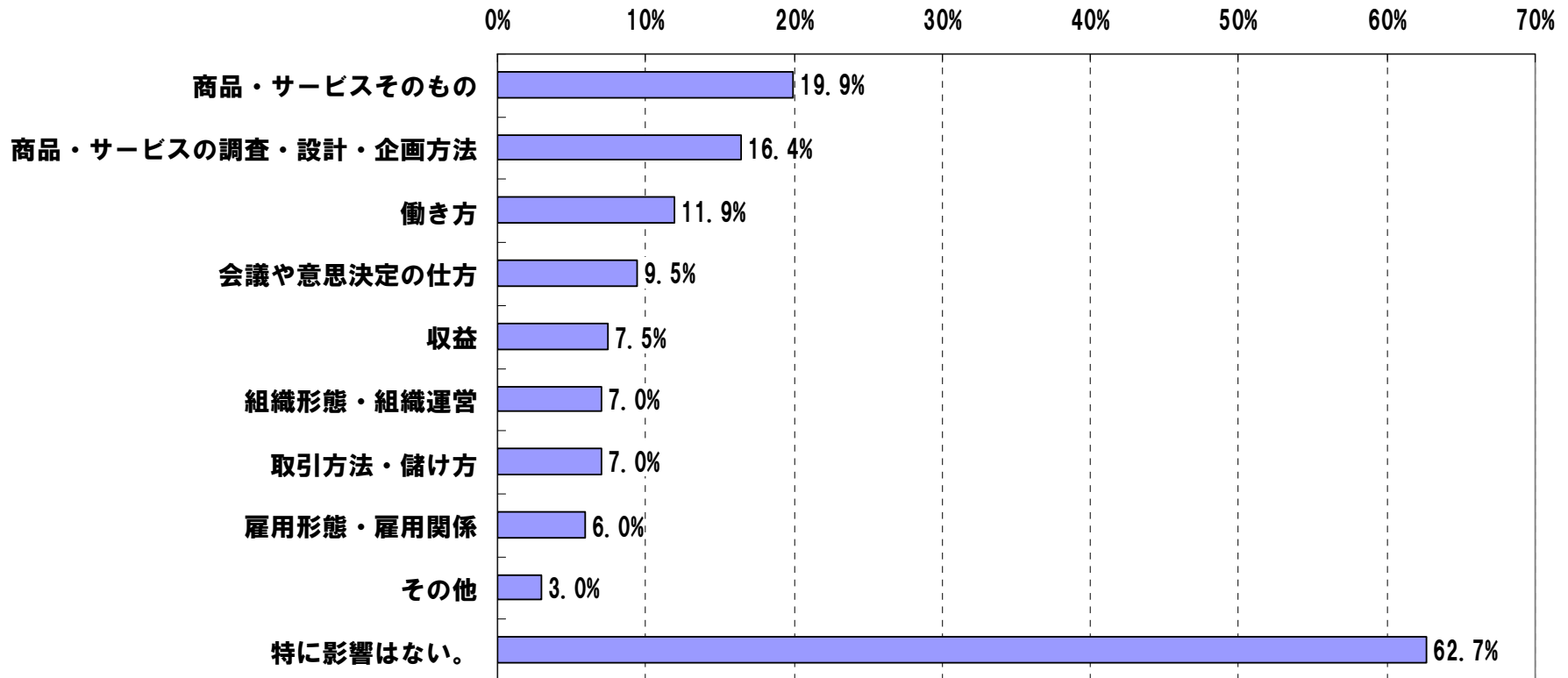
- 良くも悪くも変わってしまう
- 利用することで面白さがわかるような気がする
- 欲しい情報が最適な形で得られる
- 欲しい情報がより詳しく、多く分かるようになると思う。
- 未だに旧態依然とした**テレビは捨て去られ**、情報入手の手段としては古くなる。いつでも見たいときに情報を入手できるwebの発展系が主役となる。
- 埋もれていた、個人の才能が開花される
- 便利になるかもしれないが、誤った情報、偏った情報を排除するのに苦労しそう
- 偏った情報に左右されないうで多様な情報が得られ少しは利口になれるかな？
- 物を調べるときに、より専門的にそして一般の人の**正確な商品評価を期待できる**ので。
- 幅広い視野で関連情報が得られるので、疑問などの 解決に役立つ。
- 不特定多数の人が情報を得たり与えたりできるのでその真実を見極めることが必要だと思う。
- 得た情報をただ受けるだけでなく、情報の流用、新たな情報の追加を行い情報の発信者になる。
- 働く場所が増えると思う。
- 電化製品や高価な商品を店頭で選択する前に、必ず口コミのようなページを閲覧してから出かけるようになった。それでも店員さんの意見もかなり割合を占めますが。絞る材料にはなりません。
- **テレビが衰退し、インターネット場での広告活動が活発**になり、今よりも多くの人々がインターネットでのショッピングを行うようになる
- ただなんとなく。
- そもそもネットの情報は余り信用していないが、今後の状況によりある程度信頼しても良いかもしれないと思っただけ。
- スパムブログなど悪用された新しい犯罪に繋がる恐れがある。
- すいません。アンケートで前に選んだものがちゃんと見えるようになっていて回答しやすいです。席をはずしてしまい前の質問を忘れてしまいました。
- さまざまな人が発言権を持てるようになる しかし、同時に2ちゃんねるのように匿名性が高ければその分情報は混乱し 信頼性がうすくなる。
- インターネットへの接続ができる限り、よりそれらを利便的に使いこなし、さながらどこでも使える辞書・百科事典となる。ユビキタス社会がより強まっていく。
- いままでになかった関係ができそう
- あらゆる物がネット上で行われる
- 1対NよりもN対Nのコミュニケーションの広がり。また、特有のコミュニティーが勃興し、**ニッチのマーケットが拡大**する。

(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=Q12で変化あり回答した人)

企業活動への影響は？

Q14. ウェブ2.0の出現で、あなたの会社やお仕事に影響はあると思われますか？（複数回答）

- ▶ 商品・サービスそのものに影響が出る = 19.9%
- ▶ 商品・サービスの調査・設計・企画方法に影響が出る = 16.4%
- ▶ 特に影響はない = 62.7%



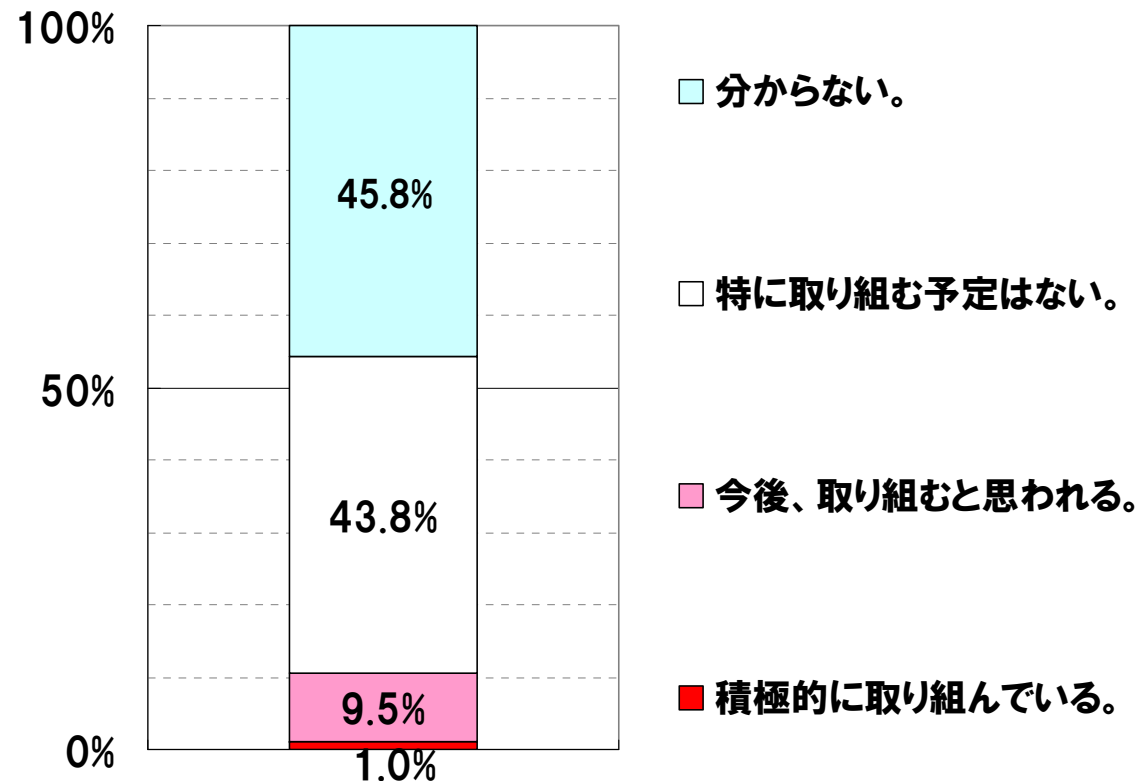
（出所：メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=201 就労者 全国20～69才）

自社のWEB2.0への取組

Q15. あなたが勤務されている会社では、ウェブ2.0に対する取組みをされていますか？

(どのような取組みでもかまいません、また、あなたをご存知の範囲内で結構です。)

- ▶ 取り組んでいる = 10.5%
- ▶ 取り組むと思われる = 43.8%



(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=201 就労者 全国20~69才)

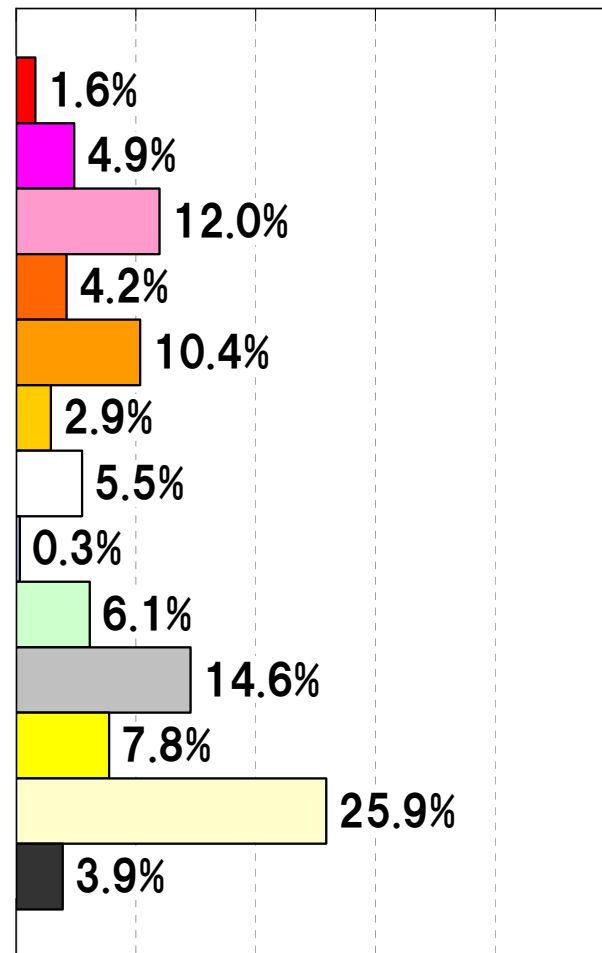
回答者職業

- ▶ 会社員 = 36.0%
- ▶ 主婦 = 25.9%
- ▶ 学生 = 7.8%

36.0%

- 会社員(企画・マーケティング関係)
- 会社員(情報システム関係)
- 会社員(製造・技術関係)
- 会社員(営業)
- 会社員(上記以外の事務職)
- 会社経営者・役員
- 自営業
- 医師・弁護士・会計士
- 公務員
- その他の職業(パート・アルバイト含む)
- 学生
- 主婦
- 無職

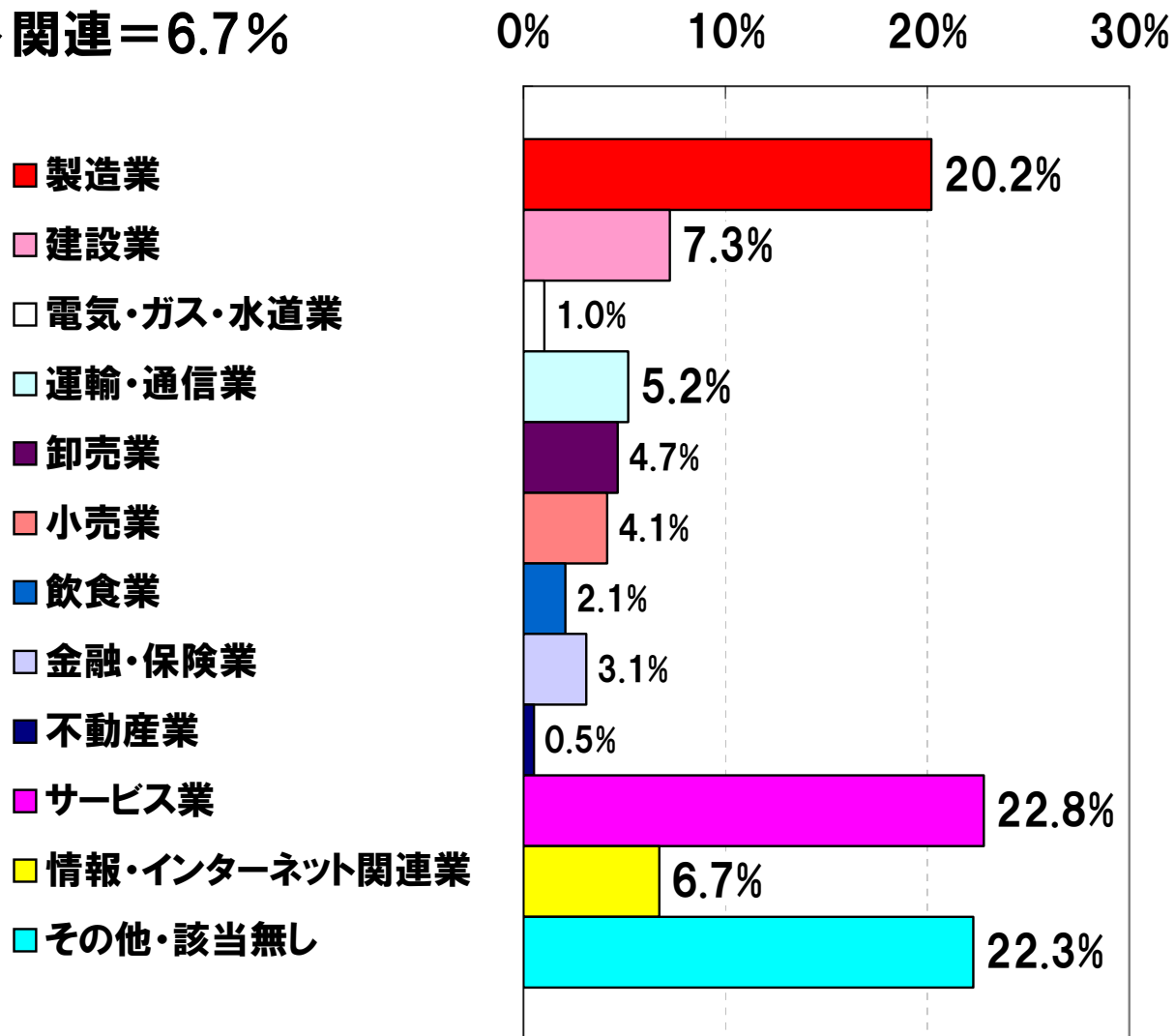
0% 10% 20% 30% 40% 50%



(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=309 全国20~69才)

回答者 勤務先業種

- ▶ メーカー=20.2%
- ▶ IT/ネット関連=6.7%



(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=201 就労者 全国20~69才)

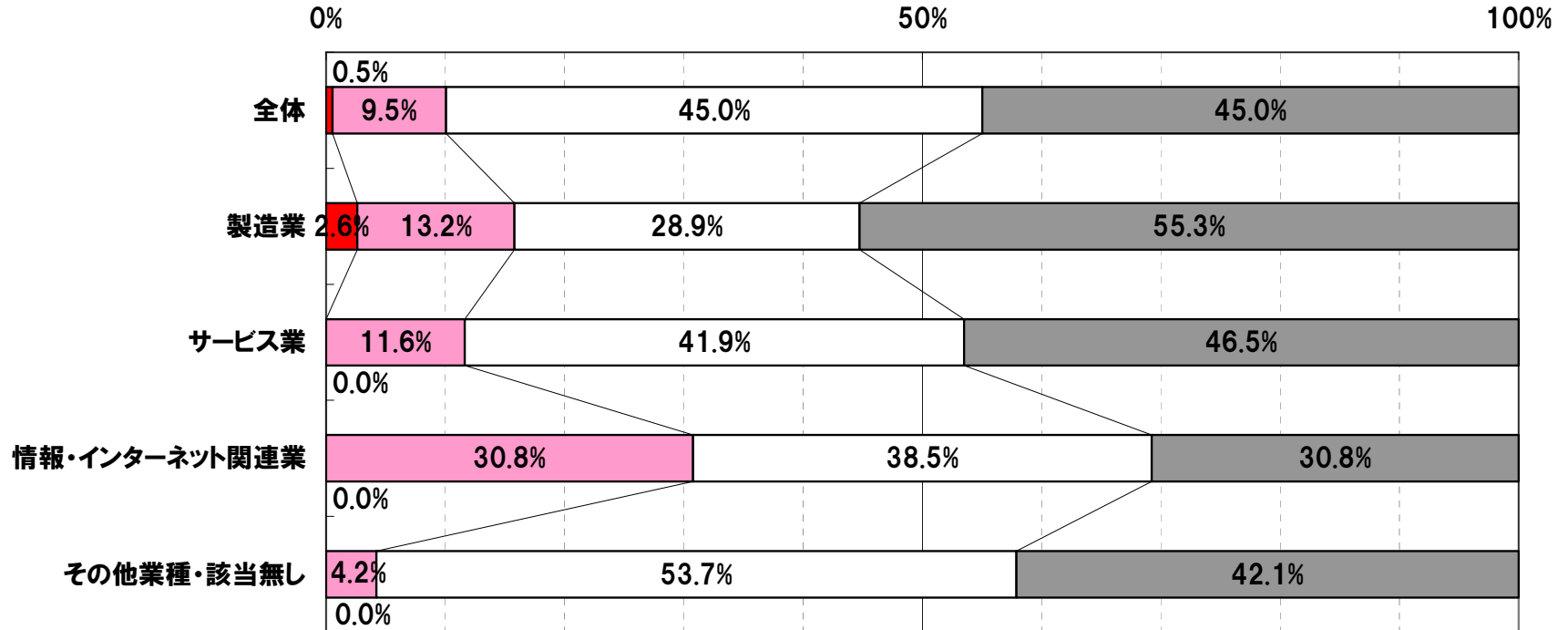
業種別 WEB2.0取組有無

クロス集計 Q16 X Q19

▶ 積極的取組ありメーカー=2.6%

▶ 今後取り組む予定あり

IT/ネット関連 30.8%



■ 積極的に取り組んでいる。 □ 今後、取り組むと思われる。 □ 特に取り組む予定はない。 ■ 分からない。

(出所:メンバーズ自主ネット調査より作成、2006年9月1日。n=201 就労者 全国20~69才)